上宮寺通信

第四十三号

和国の教主

熱戦が繰り広げられた北京オリンピックも終わり、今年もはや3月となりました。

例年よりも寒く感じた冬でしたが、最近の日差しには春の温もりが感じられます。お彼岸の頃には桜の開花が話題にのぼることでしょう。

さて、お彼岸の頃には太陽がちょうど真東から昇り真西に沈みます。大阪の四天王寺では西門の石鳥居の真ん中を通って太陽が沈むとあって、多くの参拝者が訪れるそうです。古くから太陽の沈む真西の方角を見て、人々は浄土に思いを馳せていたのでしょう。

四天王寺は聖徳太子が創建されました。太子は西暦五七四年に誕生されたといわれています。厩（馬小屋）の前で生まれたことから厩戸皇子とも呼ばれました。

推古天皇の摂政として遣隋使を行い、「冠位十二階」や「十七条憲法」を制定するなど、外交や内政に力を発揮した方です。また、10人の話を一度に聞いたという伝説も残っており、人の話を聞くことが特技と言われた某総理大臣も太刀打ちできない耳を持っておられた方でもあります。

古くから各地に太子信仰があり、昭和61年まで肖像画がお札にもなっていたということで、日本人にとっては非常に親しみのある方でもあります。

浄土真宗の開祖親鸞聖人も「和国の教主（日本のお釈迦様）」として、とても敬われていました。

太子が制定された「十七条憲法」の第二条には「篤く三宝を敬え」とあります。

三宝とは「仏法僧」を指します。仏とは文字通り仏様のこと。法とは教えのことです。僧とはお坊さんのこと…、ではありません。僧とは仏様の教えに生きる仲間たちのことをいいます。

つまり人々が仏様を信じ、仏様の教えを聞き、その教えが行き渡る世界を理想として掲げたのです。ですから、日本の仏教は太子がいなければ広まらなかったかもしれないのです。

このように仏教の教えに生きた太子はご自身の生き方も深く見つめられました。

同じく「十七条憲法」の第十条に「我必ず聖に非ず。彼必ず愚かに非ず。共に是れ凡夫ならくのみ」との言葉を出されています。

〝人間はみな同じ凡夫なのだ〟太子はそのように我が身を見つめられていかれたのです。

今年は聖徳太子没後一四〇〇年の年となります。

◆行事案内

上宮寺の行事

3月8日（火）
春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時～
法要　引き続き　法話
（正午頃終了予定）

法話：林　祥眞師（一宮市禮讃寺）

※ご参詣の際はマスクの着用をお願いいたします。

※午後の法要、呈茶はございません。

※持ち帰り用の軽食を用意いたします。

◆話題あれこれ

○オミクロン株の感染状況が心配ではありますが、「春のお彼岸・永代経法要」をお勤めいたします。午前の法要と法話があります。皆様とともに法縁にお会いしたいと思いますので、ぜひご参詣ください。

○今年のお彼岸は18日（金）～24日（木）となります。〝暑さ寒さも彼岸まで〟と言われます。天気のいい日には東別院へ出かけてみてはどうでしょうか。桜も咲いているかもしれませんよ。

○住職、前住職が演奏者として出ていました東照宮舞楽祭（4月16日）が今年も中止となりました。残念です。

○今号では聖徳太子をテーマに書かせてもらいました。寺号である〝上宮〟は聖徳太子の住まわれていたところを表し、聖徳太子は別名「上宮太子」ともいいます。といってこの上宮寺と聖徳太子とは特別深い縁はありません、あしからず。

○仏事についてわからないことがありましたら、何でもご相談ください。

○寒暖差の激しい時期となりました。体調には十分お気をつけください。

○ロシアによるウクライナ侵攻が起きました。オリンピックで選手たちが国を越えてお互いを称え合う姿を見ているだけにとても辛いです。

【雑感】

3月に入るとパラリンピックが開幕しますが、やはり球春間近ということで関心はプロ野球になってきます。中日ドラゴンズは立浪新監督のもと充実したキャンプを送り、優勝は厳しいもののＡクラス入りは期待できるでしょう。毎年のことながらファンとしてはこの時期が一番楽しいですね。根尾、岡林、石川、高橋宏ら若手の中から誰が活躍するのか。高橋周、京田、平田ら昨季不振だった選手の復活はあるのか。コロナ禍で沈んだ気持ちを明るくさせてほしいものです。

（住職記）

【発行】
真宗大谷派
上　宮　寺
昭和区白金一丁目十九番十五号
☏０５２-８７１-０５４７